

通信・IT ネットワークの分野では、日々新しい技術が開発され、より効率的で、より安価なサービスが次々と生み出されています。知らないことは、イコール企業利益の損失です。そこで私たち大和電設工業は、情報通信やITソリューションの『知って得する最新情報』を、お世話になっている皆様に定期的にお伝えしていきます。隔月発行のDDK通信、ぜひお楽しみください。

タブレットのビジネス活用！ ふたたび

前々回、タブレット端末のビジネス活用について紹介しましたが、反響を沢山頂きましたので、再度ご案内させて頂くこととなりました。今回は、具体的な活用例を紹介させて頂きたいと思います。

■ 全てのマニュアルを持ち歩く

重たいマニュアルを担いで機器のメンテナンスで現場まで移動していました。故障した機械の原因を調べるのにマニュアルのページをめくりながら必要なページを探すのも大変でした。

タブレットに全てのマニュアルをPDFで保存すれば、移動も楽になり、全てのマニュアルが入っているので安心して作業に取り掛かれます。また、必要なページを探す際もページめくりが簡単に行えます。



■ 商品説明を動画で伝えるメリット

駐車場のシャッターの新商品説明時に、「以前の商品と比べて開閉速度が早くなり、しかも静か」と言う事を、カタログだけではなかなか伝えきれませんでした。シャッターの開閉の様子をタブレットに動画で撮りお客様に比べて見て頂いたら、新商品の素晴らしさがすぐに伝わりその場で決断頂きました。紙だけの提案書ではなかなか理解して頂き難い事が、動画だと簡単に伝える事ができます。



■ 社内コミュニケーション

上司は、業務を担当者に指示はしますが、その後は、のノータッチになってしまい、指示した内容が本当に遂行されているのかなど懸念がでてきますが、その仕上がりをタブレットで動画や写真に撮って非公開でFacebookやYouTubeなどにそのままアップしておけば、後で上司が内容を確認できるようになりますし、途中、進捗確認もできます。他の同僚がそれを見る事で工事の参考になったりと、業務品質向上献します。

また、活用方法によっては、社内コミュニケーションのツールにもなります。同じ様な仕組みで、自民党でITを活用した「エンゼル・リンク」という選挙支援の仕組みがあります。自分以外の選挙活動について知る事がなかった立候補者が、他候補者の活動内容を見て自分の活動に生かしたり、他の候補者との連帯感を持てたと言った事もありました。

